

事項一〇 廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題

六〇四 七月二十三日（発） 在廣東天羽總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題

リ請願ニ関スル件

第一八四号

本官発在支公使宛電報

第一二九号

七月二十日伍朝枢ハ本官ニ對シ一九一九年西南護法政府ニ對スルト同様廣東政府ニ對シ関稅剩余金配布方過日首席領事ヲ通ジ外交團及總稅務司ニ請願シ置キタルガ右ハ專ラ省民福祉ノ為ニ使用シ軍費ニ費消セザルモノナルニ付帝國ニ於テモ之ニ承諾ヲ与ヘラレタク、右閣下ニ傳達方依頼アリタルニ付右ニ関スル覺書ヲ提出方要求シ置キタル処二十一日持參ノ上重ねテ承認方懇願セリ、右覺書ハ已ニ御入手ノコトト察スルモ為念郵送ス

外務大臣ヘ転電セリ

機密公第三九号

大正十二年九月七日

在廣東

總領事 天羽 英二

在北京

特命全權公使 芳沢 謙吉殿

本件ニ関シ廣東政府ヨリ北京外交團ニ提出スベキ覺書草案ハ曩ニ外交部長伍朝枢ノ要求ニ応ジ七月二三日付機密第一二九号拙信ヲ以テ及傳達置候処今回愈々同部長ヨリ公式ニ当地首席領事タル英國總領事「サー、ゼムス、ジャミーソン」ニ宛テ北京外交團ニ送達方申出デタル趣ニテ本日英國總領事ヨリ回章ヲ以テ日、米、仏、葡、各總領事ニ宛テ別紙首席公使宛首席領事書翰案ニ就キ意見ヲ徴シ来リタルニ付本官ハ之ニ同意ヲ表シ置キ候他ノ同僚亦恐ラクハ異論無之カルベク英國總領事ノ来信ニ依レバ多分明日發送セラルベキ由ニ有之候本件ハ既報ノ如ク七月初旬伍朝枢ヨリ英國總領事ニ非公式ニ開談セラレタルモノニシテ當時英國副領事（英國總領事ハ爾来久シク病氣入院）来翰ニ依レバ当地英國領事ト貴地英國公使ノ間ニ右ニ就キ意見交換中ナリト

一〇 廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題 六〇五

六〇五 九月十一日 在廣東天羽總領事ヨリ
山本外務大臣宛

廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題

付屬書

九月七日付在廣東天羽總領事ヨリ芳沢公使宛機密公第三九号信写

廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題

機密第七五号

大正十二年九月十一日

在廣東

總領事 天羽 英二（印）

外務大臣伯爵 山本 権兵衛殿

大正十二年九月七日付機密公第三九号芳沢公使宛信写送

付

件名

廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題

（付屬書）

九月七日付在廣東天羽總領事ヨリ芳沢公使宛機密公第三九号信写

廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題

ノ事ナリシ故今頃ハ兩者ノ間既ニ充分打合アリタル事カト被察候本件ニ関スル廣東政府ノ主張並ニ之ニ對スル当方ノ事情ハ別紙ニテ詳細御承知ノ処今回廣東政府ノ要求ハ現在及將來ニ於ケル南方側関稅剩余額ト千九百二十年三月以來交付ヲ停止セララルト同時ニ總稅務司ニ保管ヲ托セラレタル剩余額（大正十年二月小幡公使發外務大臣宛電報第一三四号及同年三月第二一五号第二一六号参照）トノ引渡ニアル処公正ノ見地ヨリスレバ後者ノ要求ニ對シテハ相當議論ノ余地可有之乎ト被存候ヘ共前者即現在及將來ノ剩余額ノ廣東政府ノ支配下ニアル各港ノ関稅收入ノ割合ニ比例シテ解除セシムル事ハ大正八年六月関稅剩余額ヲ西南各省ニ配分スル事ニ同意ヲ表セル當時ノ外交團ノ決議（大正八年六月小幡公使發外務大臣宛第八九一号及第九五一号電報参照）ニモ鑑ミ強ヒテ反對スベキ理由モ無之乎ト被思考候只大正八年當時ニ比スレバ現在在廣東政府ノ勢力範圍ハ著シク局限セラレ其目下ノ勢力ハ西北方ハ纔ニ省境ヲ超ユルモ東方ハ惠州及石竜以東ニ及バズ事實汕頭方面ヲ除ク廣東省及廣西省ノ一小部分（最近譚延闓ノ湖南入りト同時ニ湖南省ハ其勢力下ニ入りタリト稱スルモ未ダ安定ナリト云フヲ得ズ）

五九七

ヲ支配シ得ルニ過ギザルヲ以テ實際広東政府ノ割当額ヲ從前ノ率即広東、広西、雲南、貴州ニ對スル割当率剰余金全額ノ百分ノ一三・七ト同一トスル事ハ公正ヲ得タリト言フ可カラズ其割当額ハ現在確然広東政府ノ勢力下ニアル各港即汕頭ヲ除ク広東全省及広西省梧州ノ各関税收入額ヲ基礎トスルコト当ヲ得タルモノ乎ト思考致候而シテ一九二一年度ニ於ケル剰余金ノ百分ノ一三・七八約三百万兩ニ過ギザル由ナルヲ以テ右標準ニ依ル時ハ事實広東政府ノ分前ハ甚少額ナルモノニ有之候

若シ広東政府ノ要求ニシテ外交団ノ容ルル処トナラザル場合ハ広東政府当局ハ塩税ノ例ニ倣ヒ海関ノ差押ヲ断行センコトヲ欲スルモ右実行ハ事實至難ナル事情アルヲ以テ別紙首席公使宛書翰ニ記述セラレタル通り自由港制度ヲ採用シ輸入税ハ課セザルモ輸入セラレタル貨物ニ勝手ニ課税セントスル意嚮ヲ有スルモノノ如ク現ニ孫文ハ本官等ニ屢之ヲ公言シタル事實有之候從ツテ本件ニ関シテハ公正ノ見地ヨリ詮議スルト同時ニ之ヲ拒絕シタル場合ノ結果ヲモ予メ考慮ニ置ク必要可有之乎ト思考致候

右不取敢報告旁心付キノ諸点御参考迄申進候

敬具

(編註)
付属

伍朝枢発首席領事宛書翰並ニ首席領事発首席公使宛書翰案

本信写送付先 大臣

編註 付属書類ヲ省略ス

六〇六 十月七日(発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

関税剰余配当問題ニ関スル日英米仏四国公使

會議内容報告ノ件

第九二七号

(五七五文書) (六八五文書)
往電第八八三号及九二三号ニ関シ

広東政府ニ對スル関税剰余配当問題ニ付十月六日日英米仏四国公使米国公使館ニ会合ス英国公使ヨリ往電第九二三号所載本國政府ヨリノ電訓ヲ説明シ広東政府ノ主張モ相当理由アルカ故ニ北京政府ヲシテ広東政府トノ間ニ話合ヲ遂ケシムルコトトシテ暫ク形勢ヲ觀望シ兩者ノ間ニ折合付カサルニ於テハ外交団ニ於テ是ニ(脱)シ兩者間ノ分配額ヲ定

府ノ内情ニ付井上謙吉内話報告ノ件

第二八一号

ムルコトトセハ可ナラント提議シタルニ付本使ハ元來本件ニ對スル外交団ノ方針ハ從來必スシモ一定セス外債ヲ支払ヒタル殘額ナルヲ以テ支那政府ニ於テ自由ニ処分シ得ルモノニシテ從ツテ兩者ノ間ニ於テ話合ヲ遂クルニ於テハ外交団トシテ素ヨリ何等ノ異議無キ次第ナルモ両政府ノ間ニ於テ果シテ満足ナル協定ニ達シ得ルヤ否ヤ甚タ疑問ナリト指摘シタル処米国公使ハ広東政府ニ對シテハ暫ク回答ヲ差控ヘ置キ「アグレン」ノ歸來ヲ待チ兩者間ニ立ツテ然ルヘク幹旋ノ勞ヲ執ラシムルコトトシテハ如何ト提議シ仏国公使並本使ニ於テモ是ニ賛同シタルモ英国公使ハ必スシモ賛成ノ意ヲ表示セス尚往電第八八三号所載ノ声明案ニ付テハ米国公使ヨリ事態ノ變(化)ニ顧ミ暫ク是ヲ見合スコトトシタシト申出テ各公使ノ同意ヲ得タリ右何レ外交団會議ノ議ヲ經テ確定スルコトト信スルモ不取敢

広東へ転電セリ

六〇七 十一月二十一日(発) 在広東天羽總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

広東政府ノ海關乗取リノ計画ニ関スル同政

一〇 広東政府ノ関税剰余金分与要求問題 六〇七

シ置ケリ

右ハ李烈鈞ノ思付ニテ我方ノ腹ヲ探ラントスルモノナルヤモ計ラレサルモ其際井上ハ本官ノ問ニ對シ孫文ハ本氣ニ実行スル考ニテ既ニ米國ヨリハ黙認スルトノ保証ヲ得タリト

云へり御参考迄

在支公使へ転電セリ

六〇八 十一月二十五日 (発) 在広東天羽総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

広東政府ノ海關乗取計画ニ付財政庁長鄒魯ヨリ

申出アリタル件

第二八四号

(十一月二十八日接受)

二十四日財政庁長鄒魯來訪孫文ノ意ヲ受ケテ來レリト前置シテ往電第二八一号并上ト同様ノ申出アリタルニ付本官モ前同様ノ挨拶ヲ為シ置ケリ其際鄒魯ハ本官ノ問ニ対シ右ハ英国総領事ヨリ関税剰余引渡ノ見込ナキヲ知リタル結果決定セラレタルモノナルカ同総領事ハ広東政府ニ於テ右ノ如キ挙ニ出ツル場合英国ハ經濟断交ヲ為スヘキ口調ヲ洩セル由ナリト云へり鄒魯トノ会同ニ依リ得タル印象ニ依レハ孫文ハ本氣ニ本件ヲ考ヘ主要国ノ意向ヲ探リ居ルモ海關廢止カ海關差押カ (機密第七五号送付北京宛機密第三九号拙信参照) 何レニ依ルヤハ未タ成案ナキモノノ如シ

在支公使へ転電セリ

六〇九 十一月二十七日 (発) 在広東天羽総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

広東政府ノ関税剰余金配分ノ要求ニ関スル英

国総領事ノ談話報告ノ件

第二八五号

往電第二八四号ニ関シ

二十七日英国総領事ト会谈ノ折得タル左ノ聞込ハ同国ノ態度ヲ察知スルニ足ルヘキニ付御参考迄
十一月二日上海ニ於テ総稅務司ニ関税剰余引渡問題ニ対スル広東政府ノ要求ヲ詳細述べタルニ總稅務司ハ非常ニ昂奮セル口調ニテ現在関税剰余ハ塩税及煙酒税ト共ニ内償償還基金ニ充当セラルルガ故ニ若シ之ヲ他ニ引渡ストキハ上海財界ノ如キハ非常ナル恐慌ヲ來スベク上海銀行團モ已ニ之ニ対シ抗議ヲ申込ミ居ル次第ナルヲ以テ到底広東政府ノ要求ヲ聴キ入ルル余裕ナシト答ヘタルヲ以テ同總領事ハ広東政府ノ要求ヲ聴入レザルトキハ広東政府ハ或ハ海關差押ヲ断行スルヤモ知レズ若シ広東ニシテ一度此舉ニ出ツルコトアランカ各地之ニ倣ヒ上海以外ノ税関ハ殆ド北京ノ羈絆ヲ

脱スルニ至ルベシト注意セシニ總稅務司ハ事態ノ重大ナルニ鑑ミ明朝銀行團ト更ニ会谈スベキ旨ヲ約シタリ總稅務司トハ夫レ以外会见ノ機ナカリシモ其ノ後「アグレン」ハ十一月三日ノ朝銀行團ト会见ノ結果銀行團ハ事態ノ重大ナルコトヲ印象シタリト手紙ニテ申來レリ更ニ英国公使トモ本件ニ付屢々会谈シタルガ同公使ハ衡平 (equity) ノ見地ヨリ見テ主義トシテ関税剰余引渡ニ賛成シ居リ又事態ノ窮迫セルコトヲモ諒解セルヲ以テ帰京勿々外交團ニ持出ス答ナリ其ノ際公使ハ若シ支那政府ニシテ飽迄広東ヘ剰余引渡ニ反対スルトキハ其ノ結果ニ対シテハ全然支那政府ガ其ノ責ニ任ズベキ旨ヲ警戒センコトヲ提議スル積ナリト云ヒタリ

広東ニ於テ十九日伍朝枢同總領事ヲ訪ヒ剰余引渡問題ノ成行ヲ聞キタルニ付概略其顛末ヲ述べ置キタルニ其際伍ハ若シ広東政府ノ要求ニシテ貫徹セラレザル場合ハ遺憾乍ラ最後ノ手段ニ訴ヘントノ口調ヲ洩シタルヲ以テ同總領事ハ右ノ如キ場合ハ英国ハ經濟封鎖ヲ断行スベシ日、米、仏亦必ズヤ之ニ賛成スベシト告ゲタルニ伍ハ広東トシテハ西貢ヨリ米輸入ノ途サヘ立テバ困ラザルガ夫レガ為ニハ日本船ヲ

一〇 広東政府ノ関税剰余金分与要求問題 六〇九

備船シ得ベシト云ヒタルガ段々会谈ノ結果辞去スル際ニハ海關差押ノ無謀ナルコトヲ悟リタルモノノ如ク至急北京外交團ニ剰余引渡問題ノ成行ヲ問合センコトヲ依頼セリ其後伍ヨリ問合方催促ニ接シタルヲ以テ本日入手スル北京郵便中ニ何等ノ通知ナキ時ハ直ニ北京ニ問合方打電スル考ナリ云々
尚其際所謂經濟封鎖ニ関スル問答中ニ於テ同總領事ハ「アグレン」ハ帰任ノ途次華府ニ於テ「ヒューズ」ト談合シタルガ「ヒューズ」ハ米国ノ欧州ニ対スル態度如何ニアレ支那ニ対シテハ条約上ノ權利擁護ト関税制度ノ維持ノ為英國ト一致ノ行動ニ出ヅベキコトヲ言明シタル趣ナル故米國ハ必ズ經濟封鎖ニ賛成スベク日本及仏國ハ亦實際上ノ利害關係ヲ考慮スレバ一致ノ行動ヲ執ルベク場合ニ依リテハ各國軍艦ヲ派遣シテ封鎖ヲ監視スベシトテ鞏固ナル議論ヲナセ

北京へ転電セリ

六一〇 十二月二日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

広東政府広東税関管理通告ニ対スル対策ニ付
外交団会議ノ申合セノ報告及ビ在広東我方
軍艦ノ必要ノ行動ニ付稟請ノ件

第一一三三号

往電第九二七号ニ関シ

広東政府ハ関税剰余配当問題ニ関スル外交団ノ回答ヲ俟タズ在広東税関ヲ一時同政府ニ於テ管理スベキ旨同地英国総領事ニ通告シタル趣同総領事ヨリ英国公使ヲ経テ外交団宛電報アリタル趣ヲ以テ十二月一日和蘭公使館ニ於テ (葡萄牙公使ハ十二月十一日出発賜暇帰朝スルニ付十一月二十九日首席公使ノ事務ヲ和蘭公使ニ引継ギタリ) 外交団会議ヲ開キ結局在広東英国総領事ニ宛テ同地領事団ハ支那海関ニ対スル如何ナル干涉ヲモ是認スルコトヲ得ザルコト及万一千渉アル場合ニハ其ノ必要ト認ムル嚴重ナル手段ヲ執ルベキ旨広東政府ニ警告スベキコトヲ決議シ同日直ニ英国公使ヲ経テ發電セラレタリ尚會議ノ席上在広東各国軍艦ニ対シ本件ニ関シテハ領事団ト打合ヲ遂ゲ必要ナル手段ヲ執ルベ

キ旨各国公使ヨリ電報スベシトノ議出デタルニ付本使ニ於テハ本国政府ニ稟請シ各国ト協同ノ動作ヲ執ル様尽力スベキ旨述ベタルニ米國 (脱?) 打合ノ上在広東帝国軍艦ニ対シ領事団ト打合ヲ遂ゲ且他國軍艦ニ於テ同一ノ態度ヲ執ルニ於テハ場合ニ応ジ必要ナル行動ニ参加スル様命令方至急御取計アリタシ

広東へ転電セリ

六一一 十二月三日 (発) 在広東天羽総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

広東政府ノ税関管理通告ニ対シ広東首席領事
ヨリスカル干涉ヲ認メザル旨同政府へ通告ノ
件

別電 同日在広東天羽総領事發伊集院外務大臣宛電報

第二九一号 首席領事發伍朝枢宛書翰内容

第二九〇号

十二月三日英国総領事ヨリ回章ヲ以テ北京外交団ノ訓令ニ基キ別電ノ通り同日付首席領事發伍朝枢宛書翰ヲ發送シ置キタル旨通知越シタルガ之ヨリ先同日米國総領事本官ヲ来

第二九一号 別電

首席領事發伍朝枢宛書翰ハ在支公使發閣下宛電報第一一一三号中ノ英国公使ヨリ当地首席領事ニ宛テタル電文ノ意味ヲ記載シ右ハ外交団ノ訓令ニ依リ伝達スルモノナルニ付篤ト考量ノ上右ニ対スル広東政府ノ意見ヲ遲滞ナク回示セラレタキ旨ヲ付言シタルモノナリ

在支公使へ転電セリ

六一二 十二月五日 (発) 田尻馬公要港部司令官ヨリ
財部海軍大臣、山下軍令部長宛電報

広東政府ノ海関税差押計画ニ対シ各国軍艦
東沖ニ集合ノ件

広東情報第三番電 (十二月十二日外務省写接受)

第二十三驅逐隊司令報告

孫文ハ軍資ニ窮シ海関税差押ヲ企図シ之ニ対シ北京外交団ハ各国軍艦ヲ当地ニ派遣シ示威運動ヲナシ要スレハ武力ニ訴ヘントシ手配中英国軍艦四隻仏國軍艦二隻米國軍艦二隻集合シ英仏支那艦隊長官三日到着セリ

十二月四日

首席領事發伍朝枢宛書翰内容

号

(別電)

公使へ転電セリ

十二月三日在広東天羽総領事發伊集院外務大臣宛電報第二九一

六一三 十二月六日 (発) 伊集院外務大臣ヨリ
在廣東天羽總領事宛 (電報)

廣東政府ノ税関管理計画ニ対シ穩和手段ニテ
阻止方望マシキモ万一ノ場合ハ軍艦出動ノ措
置差支ナキ旨訓令ノ件

第七七号

貴電第二九〇号ニ関シ

廣東政府ノ税関管理計画カ甚タ不法ノ次第ナルハ言フ俟タ
スト雖モ外国側ニ於テ芳沢公使來電ノ如ク反对ノ決心ヲ堅
メ強硬ノ態度ヲ以テ臨ム以上廣東政府ニ於テモ輕々ニ管理
ヲ断行スルカ如キコトナカルヘク且我方トシテハ飽迄穩和
ノ手段ニヨリ其ノ實現ヲ阻止スルコト素ヨリ望マシキ次第
ナルモ万一廣東政府側ニ於テ外国側ノ意向ヲ無視シ不法ノ
措置ニ出テ且之ヲ阻止スル為メ領事団ニ於テ一致ノ態度ヲ
取ル場合ハ之ト歩調ヲ合ハセ軍艦側ト連絡ヲ執リ適當ノ措
置ニ出ツルコトトシ差支ナキモ我方ニ於テ主導ノ態度ニ出
ツルコトハ避クル様致度シ

右北京ニ転電アリタシ

六一四 十二月六日 (発) 在廣東天羽總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

廣東政府ノ税関管理計画ニ反对スル廣東首席
領事ヨリ同政府宛通告ニ対シ伍朝枢ヨリ回答
越シノ件

第二九六号

往電第二九〇号ニ関シ

五日伍朝枢ヨリ左ノ意味ノ回答アリタルヲ以テ同日夕刻外
交団首席公使ニ電報シタル趣六日英國總領事ヨリ回章ニテ
通知アリタリ
支那海關ハ徹頭徹尾支那國ノ官庁ナルヲ以テ本政府ノ命令
ニ服従スベキモノニシテ少クトモ本政府ノ管轄及勢力下ニ
在ル諸港ノ海關ニ於テ然リトス從來南方諸港ニ於ケル税関
收入ハ孰モ北京ニ送付セラレ北京政府ハ間接ニ之ヲ軍資金
トシテ南方討伐軍ヲ送りツツアリ故ニ本政府ハ税関長ニ対
シ北京ヘノ送金ヲ中止シ地方的ノ費途ニ當テムコトヲ命令
セムト欲ス何等海關ニ対スル干涉ガ企図セラレタルモノニ
アラズ又海關ノ官吏ガ脅威セラルタルニアラズ是唯單純ナ
ル支那内政上ノ問題ニシテ諸外国トハ何等ノ關係ナシ尤モ

第二九七号

本官発在支公使宛電報第二一三号

外務大臣宛第二九六号ニ関シ

(一) 廣東政府ハ外交団ニ対シ至急其要求ニ対スル決定ヲ促シ
二週間何等ノ行動ヲ執ラサル旨ヲ言明セルカ故ニ外交団ニ
於テハ此際之ニ対シ諾否ヲ決定スル運トナルコトト察スル
処由來本件ニ関シテハ廣東側ニ於テハ最初ヨリ若シ其要求
拒絕セラルル場合ハ極端ナル手段ニ出ツヘキ氣合ヲ示セル
カ (機密往信第三九号参照) 其後外交団内部ニ於テハ既報
ノ如ク穩健分子次第ニ去リ今ヤ其實權ハ年少氣鋭ノ少壯派
ニ歸スルノミナラス孫文初メ其周圍ハ今回失脚セハ再起極
メテ困難ヲ感知シ此所ヲ最後ニ踏止マルヘキ決心ヲ為シタ
リトモ伝ヘラレ孫文ノ如キハ四日 (ノース・チャイナ・デ
ーリー・ニュース主筆「グリーン」) ニ対シテモ明白ニ税関
差押ノ意図ヲ言明シタル趣 (六日英總領事ヨリノ聞込) ナ
ルヲ以テ廣東側ニ於テ極端手段ヲ執ラムトスル可能性ハ更
ニ多キヲ加ヘタリト観測サル

(二) 廣東側ノ要求拒絕セラルル場合ハ廣東政府ハ大正 (脱)
〇年ト同様ノ措置ヲ執ルヘキカ然ラスンハ進ンテ独立ノ税

六一五 十二月六日 (発) 在廣東天羽總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

廣東政府ノ税関管理計画ニ関シ我ガ方ノ執ル
ベキ態度ニ付意見稟申ノ件

一〇 廣東政府ノ関税剰余金分与要求問題 六一五

関ヲ設置スルノ挙ニ出ツヘキカト推測セラルルモ英国総領事ノ如キハ今回ハ孫文ハ強力ヲ以テ税関差押フヘシトナシテ英仏領事ハ英ノ「レブソン」大將仏ノ「エロテ」少將共ニ右ノ如キ場合ニ対シ英国ハ水兵ヲ上陸税関ヲ衛護セシムヘク仏國ハ大本營ノ対岸停車場附近ニ水兵ヲ上陸セシムルコトニ手筈ヲ定メタリト聞ケリ米國総領事ハ依然何等ノ訓令ニ接セサル趣ナリ

(三) 民党内ニハ所謂元老派少壮派及資本派ノ兩派アリ兩派ノ日本ニ対スル感触ハ其間必スシモ同一ナリト言フヘカラサルモ日本ニ対シ好感ヲ有セル事実ハ否ムヘカラサルカ故ニ帝國トシテハ北方政府ノ立場ヲ考慮スルト同時ニ南方トノ關係ヲモ看過スルヲ得ス故ニ此際我方ノ執ルヘキ策ハ広東政府ヲシテ極端ナル手段ヲ執リ正面ヨリ英仏ト衝突スルカ如キ場合ニ立至ラシメサルニアリト信ス広東政府ノ欲スルモノハ所謂関税剰余引渡ニアルヲ以テ広東政府トシテハ其要求ニシテ達成セラルル場合ハ何等ノ文句ナキ筈ナリ而シテ関税剰余引渡問題ハ理論上ヨリ見ルモ將又先例ニ徴スルモ必スシモ広東側ノ要求ヲ拒否スヘキ強キ根拠アルモノニアラスト思考セラルルヲ以テ若シ外交団ノ大勢関税引渡

往電第二九〇号末段ニ関シ

松ト交代五日久港シタル杉ハ馬港ニ用務アルト当分当地ニハ不要ノ為九日出港ス

「レブソン」及「フロシヨ」兩提督ハ在支公使往電第二二三号(二)ノ打合ヲ終ヘ六日一時香港行目下当地ニハ英米艦各二隻仏艦一隻在港ス

香港広東間電信不通ニ付今後急用ノ場合ハ台湾鳳山經由在港日本駆逐艦宛若シ日本駆逐艦アラザル時ハ鳳山ヨリ香港Comodore 取次ギ在港英艦宛又ハ鳳山ヨリ直接米艦「アシユビル」号宛ニ無線電報ヲ使用セラルルコトニ願ヒタシ在支公使ヘ転電セリ

六一八 十二月十二日 (発) 在マニラ浜口総領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

米國軍艦マニラヨリ広東方面ニ出航ノ旨報告

ノ件

第一四三号

南支方面ニ於ケル時局ニ鑑ミ米國駆逐艦第二百二十五号第二百二十六号第二百二十七号第三百四十三号第三百四十四

一〇 広東政府ノ関税剰余金分与要求問題 六一八 六一九

拒絶ニ傾カサル場合ニ於テハ此際我方ヨリ進ンテ関税剰余ノ引渡ヲ承諾シ場合ニ依リテ右様決定セシムル様誘導ニ努ムルヲ賢策ナルカト思考ス差出ケマシキモ卑見御参考迄
外務大臣ヘ転電セリ

六一六 十二月八日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

広東政府ノ税関管理ニ対シ我方ノ執ルベキ行動ニ付至急回訓方稟請ノ件

第一一三七号

往電第一一一三号ニ関シ

米國公使館ヘハ必要ナル行動ニ参加承認ノ電訓既ニ到達セル趣ニテ帝國政府ヨリノ回訓ノ有無英國公使等ヨリ問合セアリタルニ付至急何分ノ御訓示アリタシ

六一七 十二月十日 (発) 在広東天羽総領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

広東ニ於ケル日本及ビ各國軍艦ノ動靜報告ノ件

第三〇〇号

号及第三百四十六号ノ六隻ハ華府訓電ニ依リ香港及広東方面ニ於ケル在留米人保護ノ為十二月十一日夕刻急遽香港ニ向ケ当地ヲ出発セリ尚米國亜細亞艦隊旗艦「ヒウロン」モ即時同方面ヘ出港ノ準備中ナリト云フ右海軍軍令部ヘモ御移牒置キヲ請フ

六一九 十二月十二日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

広州灣ニ於ケル諸國ノ武力行使ニ付中国外交部宛回答及ビ関税剰余分配ニ付伍朝枢宛回答
ヲ外交団決定ノ件

別電 同日在中國芳沢公使發伊集院外務大臣宛電報第一一四八号 外交団決定ノ伍朝枢宛回答案

第一一四七号

往電第一一一三号及広東発閣下宛電報第二九六号ニ関シ十二月八日付覚書ヲ以テ外交部ヨリ大要『新聞紙所報ニ依レハ英仏伊日米各國兵艦ハ広州灣ニ集合シ陸戦隊ハ機關銃ヲ携帯シテ將ニ広州ニ上陸セントシツツアル由ナル処貴公使ハ此種重大消息ニ対シ確報ヲ得タリヤ右ハ抑モ何ノ用意ニ

係ルヤ否ヤ支那政府ハ本件ニ関シ嚴重ナル注意ヲ為ス速ニ詳細回答アリタシ』トノ趣旨ヲ各国公使ニ申越シタルニ付十二月十一日外交団會議ヲ開キ討議ノ結果右外交部ヨリノ覚書ニ対シ外交団ヲ代表シテ首席公使ヨリ外交団ノ内数ヶ國ハ一九〇一年議定書ノ定ムル所ニ依リ関稅收入カ外債ノ担保ニ充當セラレ居ル關係上広東政府ノ稅關管理ヲ防止スル為適當ノ措置ヲ講セントスルモノニ外ナラストノ意味ヲ不取敢回答スルコトナレリ次テ広東政府ニ対スル關稅剩余配給問題ヲ付議シ伍朝樞再度ノ申出ニ対スル回答案ニ付意見交換ノ末結局別電第一一四八号ノ書面ヲ伍ニ送付スルコトニ打合セヲ遂ケ尙右回答内容ハ英國公使ヨリ在広東首席領事タル英國總領事ニ電報シ且此際右回答ヲ直ニ發送スヘキヤ若クハ広東政府ノ申出ニ係ルニ週間經過後トスヘキヤニ付先以テ首席領事ノ意見ヲ徵スルコトニ決定セリ尙又伍朝樞ヨリ二回ノ申出並外交団ノ右ニ對スル二回ノ回答(今回ノ分トモ)ハ前記別電第一一四八号回答ヲ広東政府ニ送達後之ヲ北京政府ニモ通告スルハ同時ニ發表スルコトニ打合セヲ遂ケタリ

広東ハ電報セリ

amortization of certain foreign loans secured on the Customs revenues previous to 1901 and of the payment of interest and amortization of the Indemnity mentioned in Article 5 thereof, but no Treaty right has been conferred upon them to decide for what purpose the Chinese Government shall use the funds which at the end of each year shall remain at the disposal of that Government after the services of the said loans and Indemnity shall have been entirely provided for. Moreover, by the Agreement between the Diplomatic Body and the Chinese Government of the 30th January 1912, the former were practically appointed Trustees of the Maritime Customs revenues for the protection of the above mentioned obligations; but that Agreement did not confer upon the Diplomatic Body the power to allocate surplus.

As to the payments out of the Surplus of Customs receipts for certain domestic loans to which Mr. C. C. Wu in his letter to you refers, I have to

(別電)

十二月十二日芳沢公使發伊集院外務大臣宛電報第一一四八号
外交団決定ノ伍朝樞宛回答案

第一一四八号 (十二月十三日接受)

With reference to your letters dated September 7th and October 24th last on the subject of the claim put forward by the Government of Dr. Sun Yat-sen in Canton to a share in the Customs Surplus after the foreign obligations charged on the Customs revenues are paid, I have the honour to inform you that this question was duly considered by the Diplomatic Body. The conclusion arrived at, which I am desired to request you to bring to the notice of the Canton Authorities concerned, was to the effect that the granting or the refusal of such a claim does not lie within the province of the Diplomatic Body.

The signatory Powers of the Final Protocol of September 7th 1901 derive from that Protocol the right to ensure the priority of the payment of interest and

point out that the Diplomatic Body are in no way concerned with the service of these loans which was instituted without their previously having been consulted.

Finally I may perhaps remind you that the arrangement by which the then existing Constitutionalist Government at Canton was handed over a certain percentage of the Custom Surplus in 1919 and 1920 was arrived at between that Government and the Chinese Government in Peking. The Diplomatic Body on that occasion neither took the initiative nor did they act as intermediary for the conclusion of that arrangement. It is evident that they could not do so now either.

Yoshizawa.

~~~~~

六二〇 十二月十二日 (発) 在香港高橋總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

廣東ノ関稅剩余問題ニ関スル香港ノ英字諸新  
聞社説報告ノ件

第一〇一号

関稅剩余ノ問題ニ関スル十二月十日付孫文ノ「ステートメント」ニ関シ十一日ノ「プレス」紙ハ支那稅関ニ関スル脅威の打撃ト題シ社説ヲ掲ゲタルガ其要旨ハ海關ノ存在スル支那各省ニ於テ其廣東ニ於テ為サントスル所ニ倣ヘリトセバ其結果如何ト云フ点ニ重ヲ置キ支那ノ財政の信用ノ唯一ノ基礎ニシテ且外國債權者ノ保障タル機關ヲ廣東政府ニ依リ破壊セシメザルハ列強ノ重大ナル利益ナリト結ベリ次ニ十二日ノ「ポスト」紙ハ関稅收入ト題シ廣東省内ノ関稅剩余ハ廣東人民ノ利益ノ為メニ使用スベシトノ議論ハ遠方ヨリ聞ケバ尤ニ聞ユベキモ其實饑エタル軍人ノ餌食トナル外人民ノ利益トナルノ見込ナシト論述シ転ジテ本件解決上記者ノ思付キタル一案ヲ提唱シテ曰ク千九百二十一年列強ガ廣東省関稅剩余ヲ廣東省ノ河川保存在外公使館「ベスト」撲滅及公債支払ニ使用セシメタル例ニ倣フコトトシ孫

使ニ対シ米國艦隊ハ通商ノ安全ヲ保護スルヲ以テ限度トシテ適時引揚ケシムル様電訓ヲ發セリト(以下十一字不明)云々

六二二 十二月十三日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

廣東ノ関稅剩余問題ニ関スル十二月十一日ノ  
外交団會議ガ外交団全部ノ會議ナリシコトヲ  
追加報告ノ件

第一一五〇号

往電第一一四七号ニ関シ

当日ハ外交団全部ノ會議召集セラレタル次第ナルカ実ハ本使ニ於テハ本問題ハ外交部覚書ニ列挙セル英仏伊日米公使又ハ義和團事件最終議定書調印国公使ノ討議ヲ以テ足レリトスヘク若シ外交団全部ノ會議ニ付スルニ於テハ本件ニ關係無キ諸國側ヨリ議論出テ會議ノ決定ヲ困難ナラシムルノ虞アリト思考シタル処(仏国公使モ同様ノ懸念ヲ有シタル由)葡萄牙公使ヨリ往電第一一四八号回答案中字句ノ修正ヲ提議シタルモ首席公使力巧ニ之ヲ反ラシタル外、独逸其

一〇 廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題 六二二 六二三

ヲシテ之ニ同意セシメ其支出ヲ稅関ノ管理下ニ置クヘシト為シ「主義ヨリモ金錢問題ハ利害一層痛切ナレバ孫ノ主張ハ容易ニ徹底セザルベシ」ト述べタリ

尚「ポスト」紙ハ同日ノ副社説ニ於テ外國ノ同情ト題スル社説ヲ掲ゲタルガ中ニ在北京外國公使等ハ或ハ北京上海ノ空氣ニ聊カ飽滿シ居ルヤモ知レズ親シク南支ノ事情ヲ觀察セバ支那全体ニ對シ一層同情アル理解ヲ得ベシトノ提言ヲ為シ居レリ

北京、廣東へ転電セリ

六二一 十二月十二日 (発) 在北京坂西中将ヨリ  
武藤參謀次長宛(電報)

米國政府ハ北京外交団ガ艦隊ヲ派遣シ直接海  
關稅ニ干渉セルコトヲ非認スル旨在中國米國  
公使ニ電報ノ件

坂電第四三一号 (十二月十五日外務省写接受)

駐米公使九日付來電要旨

米國政府ハ本回外交団ガ艦隊ヲ派遣シ直接海關稅ニ干渉セルコトハ華府會議ノ精神ニ反クモノト認メ既ニ駐支米國公

他本問題ニ直接ノ關係ヲ有セサル各國公使ヨリ格段ノ議論出テサリシ為円満ニ談合纏リタル次第ナリ前電補遺旁右為念

六二三 十二月十三日 (発) 在廣東天羽總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

廣東政府へノ外交団ヨリ回答手交ノ時期並ビ  
ニ同政府ノ稅關管理強行ノ場合ノ処置ニ關ス  
ル領事団側協議ニ付報告ノ件

別電 十二月十四日在廣東天羽總領事發伊集院外務大臣宛

電報第三〇四号

孫文ノ廣東稅關管理ヲ防止セントスル列國ノ措置ノ  
本旨ヲ説明スル楊連合軍總司令宛書翰案

第三〇三号

往電第二九六号ニ関シ

十三日朝英國副領事來訪伍朝樞ノ書翰ニ對スル外交団決定  
回答案ニ関シ十二日夜同總領事カ首席公使代理ヨリ接(脱  
?)電報(在支公使ヨリ電報アルベシト察スルニ由リ略  
ス)並外交団ニ於テハ何時右返翰ヲ伍ニ送付スベキヤハ之  
ヲ廣東領事団ノ意向ニ任スル趣旨ノ英國公使發英國總領事

宛電報ヲ持參ノ上至急之ニ付本日午後協議シタキ旨申出アリタルニ付本官之ヲ諾ス午後四時半英國総領事館ニ英米仏葡伊各領事及本官集合一英総領事ハ先ヅ右伍朝枢ニ対スル返翰ハ何時送付スベキヤヲ諮ル同総領事ハ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ孫文ハ愈非常手段ヲ執ルコトニ決心シタルモノノ如ク過日当地税関長ガ伍朝枢ト会見シタル際ニモ亦同様ノ印象ヲ得タル趣ナルガ右外交団ノ回答ハ結局孫文ニ一文ノ金ヲ与フルモノニアラザルヲ以テ必ズヤ孫派ノ不満ヲ買ヒ彼等ハ強力ヲ以テ税関ヲ差押エルカ若クハ現税関長ニ対シ立退ヲ命ズルカ何等カノ非常手段ニ出ヅベシト予想セラルルモ右回答發送ヲ遷延スベキ必要及利益モナキガ故ニ直ニ送付スルコトニシテハ如何ト述ベ先ヅ本官ノ意見ヲ叩キシニ付本官ハ之ニ異議ナキモ若シ通告ノ際ニ日本驅逐艇ノ存在ヲ必要トスルナラバ約二日間ノ猶予ヲ要スル旨ヲ述ベ次ニ米領事モ異議ナシト答ヘタルガ仏葡兩國領事ハ右返翰ノ末尾ニ二月三日付首席領事發伍朝枢宛書翰ハ尚有効ナル旨ヲ付加スヘキコトヲ提議シ討議ノ後結局(一)伍朝枢宛書翰ノ冒頭ニ『三日付首席領事發伍朝枢宛書翰並同月五日付伍朝枢發首席領事宛書翰ニ依レバ』ナル字句ヲ挿入スルコ

ト(二)十四日首席領事ヨリ伍朝枢ニ右書翰ヲ送ルコト(三)十三日夜右ノ決定ヲ「アシュビル」号ヨリ無線ニテ北京ニ通報スルコトニ決定ス

次ニ孫文側ニ於テ事實税関ニ干渉スル場合ノ処置ニ就キ協議ス英総領事ハ先ヅ米國驅逐艦六隻馬尼刺ヨリ廣東ニ向ヒ今朝香港ニ入港シタルガ「アシュビル」艦長ノ注意ニ依リ暫時同港ニ碇泊シ後命ヲ俟チ居ル旨同艦長ヨリ通知アリ又香港及澳門ノ陸上駐屯兵ハ何時ニテモ出動シ得ルモ軍事専門家ニ於テハ只今ノ処其必要ヲ認メズト思考スル趣ナリト述ベタル後「レブソン」及「フロシヨ」兩提督ハ最初英仏兩國軍艦ヨリ税関及鉄道付近ニ水兵ヲ派遣セムコトヲ計画シタルモ其後事態ノ變更ト吃水ノ關係トニ鑑ミ更ニ協議ノ結果万一ノ場合ハ廣東港ノ北端沙面前ニ英艦「ムーアヘン」、南端大本營ト停車場間ノ入江ニ吃水最浅キ米艦「タランリー」ヲ夫々派遣シ其他ノ艦船ハ孫派艦船ノ動静ヲ監視シ又ハ若シ廣東封鎖ノ必要起ル場合ハ適當ノ任務ニ就クコトニ大体計画ヲ極メタリト報告シ一同ノ意見ヲ徴シタルガ孰モ異議ナシ

次ア英総領事ハ明日伍朝枢ニ返翰ヲ送ルトスルモ結局本營

内ノ協議其他諸般ノ準備ノ為ニ恐ラクハ來週月曜日頃迄ニハ何等ノ行動ニ出ヅルコトナカルベシト思考スルガ故ニ日本驅逐艇ハ日曜日迄ニ來広スルコトヲ希望スト述ベ其能否ニ就キ本官ノ意見ヲ聞キシガ故ニ本官ハ無線ヲ利用シ得バ可能ナリト答ヘタルニ「アシュビル」艦長ハ今夜同艦無線ニテ取次グコトヲ申出デ我驅逐艦二隻ノ派遣方ヲ電報スルコトニ決定ス其際仏領事ハ孫文側ニ於テハ塩税差押ノ場合ノ如ク月曜日迄ヲ俟タズ直ニ行動ヲ開始スベシトノ観測ヲ為シタルモ仮令右様ノ事アルモ目下廣東及香港ニ在ル各艦ニテ充分ナリト言フニ意見一致ス猶本官ハ右海軍ノ計画ハ孫文ガ強力ヲ以テ税関ヲ占領スル場合ニ限ラルルヤ將又如何ナル形式ノ下ニ行ハルルニ論ナク苟モ孫文側ニ於テ税関側ニ対シ何等ノ干渉ヲ為ス場合ニモ適用セラルルヤト問ヒシニ種々ノ議論出デタルモ結局孫文ガ強力占領ノ場合ニハ勿論現税関吏ヲ承認セス之ヲ追放セムトシタル場合ニモ之ヲ適用スベキモ現行ノ税関制度ニ手ヲ触レズシテ他ニ勝手ニ課税スル場合ニハ別個ノ問題トシテ考慮スベシト言フニ意見一致ス

次ニ英國総領事ハ廣東ニ駐在スル孫派軍隊並一般人民ニ対

シ列國ノ本旨ヲ徹底セシメムガ為ニ連合軍總司令楊希閔ニ対シ大要別電ノ如キ書翰ヲ送ラムコトヲ提議シ之ヲ決定ス最後ニ右伍朝枢及楊希閔宛書翰ヲハ首席領事ヨリ独逸總領事ニ送付スルコトニ決定シテ解散目下当港ニハ往電第三〇〇号以外ノ軍艦一隻在港ス

在支公使ヘ転電セリ

#### (別電)

十二月十四日在廣東天羽總領事發伊集院外務大臣宛電報第三〇四号

孫文ノ廣東税関管理ヲ防止セントスル列國ノ措置ノ本旨ヲ説明スル楊連合軍總司令宛書翰案

#### 第三〇四号 別電

外交団ハ孫文ガ其ノ任命スル税関吏ヲ派シテ廣東税関ヲ管理セシメ税関收入ノ差押ヲ企図シツツアリトノ報ニ接シタルヲ以テ仏國英國伊國日本葡萄牙及米國ノ領事館ニ対シ万一右計画ノ実行ヲ見ントスル場合ニハ率先税関ニ陸戦隊ヲ配置シ之ガ防止ニ当ルベキ旨ヲ命ゼリ支那ト条約ヲ有スル他ノ諸國モ亦右措置ニ賛スルガ是レ廣東官民ニ対シ何等歉意アルヲ意味シ又ハ支那ノ主權ヲ侵害セントスルモノニア

ラス唯其ノ目的ハ関税收入ヲ担保トシテ支那ニ貸金ヲ有スル外国債権者ヲ保護セントスルニアリ現ニ他ノ諸港ニ於テ条約ノ規定ニ基キ一律ニ実施サレツツアル慣行ガ打破サルル場合ハ海関ノ利益及支那共和国ノ海外ニ於ケル(脱力)ハ重大ナル侵害ヲ受クルニ至ルベシ故ニ税関吏及其ノ職務ニ何等干渉ヲ加ヘズシテ懇談的ニ関税剰余問題ノ交渉ヲ進ムベシトノ保障ガ与ヘラルルニ於テハ税関ノ守備兵即チ厳密ニ海関構内ヲ限り配置サルベキ守備兵ハ直ニ撤退セララルベシ

在支公使へ転電セリ

六二四 十二月十五日

在本邦英国大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛

孫文ノ広東海関押収阻止ノ為メ更ニ行動ノ必  
要アル場合ハ日本政府ノ協力ヲ得度キ旨申出  
ノ件

No. 171.

British Embassy,  
Tokio,

December 15, 1923.

Monsieur le Ministre,

I have received instructions from His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs to express to Your Excellency the hope that if further action is necessary for the defence of Canton as the result of Sun Yat-sen's threat to seize the Customs at that port, the Imperial Japanese Government will cooperate therein with all the means at their disposal. Although the first results of the joint naval demonstration appear to have been satisfactory, His Majesty's Government still regard the situation as disquieting.

I avail myself of this opportunity, Monsieur le Ministre, to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Ch. Eliot,

H. M. Ambassador.

His Excellency,

Baron Hikokichi Ijū,

H. I. J. M. Minister for Foreign Affairs.

(欄外註記)

十二月十五日英大使来訪手交

六二五 十二月十五日(発)

在広東天羽総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

関税剰余配分問題ニ関シ列国ノ軍艦派遣ヲ非  
難スル運動ニ対スル首席領事ノ弁明等ニ付英  
国総領事ヨリ相談アリタル件

第三〇六号

十五日朝英国総領事ノ代理トシテ副領事来訪往電第三〇七号広東地方善後委員会特別会議召集広告ニ関シ首席領事ヨリ伍朝枢ヲ通シテ同会議付人ニ対シ関税配給問題ハ外国ノ決定ニアラスシテ北京政府ノ決定スヘキモノナリ列国ハ広東ニ軍艦ヲ派遣セルハ広東政府力税関ニ干渉ヲ加ヘントスル企図アル報ニ接シタル為ナルカ故ニスノ如キ企図ナキニ於テハ軍艦ヲ撤去スヘシトノ意味ノ書翰ヲ發送スルコトニ付本官ノ意見ヲ聞キタルヲ以テ異議ナシト答ヘタリ次イテ同副領事ハ往電第三〇三号楊希閔宛書翰ハ支那側ニ於テ暴力ヲ用ヒントスル気配アル場合ニ發送スルコトトシテハ如

一〇 広東政府ノ関税剰余金分与要求問題 六二五 六二六

何ト諮レルニ付之ニ賛成セリ其際同副領事ハ今朝支那各新聞ハ随分激烈ナル論調ヲ帯ヒ居ル事実ニ鑑シ目下香港滞在中ノ米駆逐六隻ヲ呼寄スルコトトナリタル旨通知シ尚往電第三〇七号香港総督ノ調停説ニ関連シテ陳友仁カ総督ヲ訪問セルハ事実ナルモ未タ調停ノ意向アルヲ聞カス多分陳ノ勝手ナル宣伝ナルヘシト云ヘリ

北京へ転電セリ

六二六 十二月十五日(発)

在広東天羽総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

孫文ハ関税收入ヲ全部広東ニ保留スル様十九  
日税関長ニ申送ルベキ旨孫文顧問「ノルマ  
ン」ヨリ英国総領事ニ通報ノ件

別電

同日在広東天羽総領事宛伊集院外務大臣宛電報第三  
〇九号 右ノルマンノ通報

第三〇八号

十五日孫文顧問「ノルマン」ヨリ英総領事ニ別電ノ通通報アリタルヲ以テ同総領事ハ英国公使ヲ通シ首席公使ニ転報方電報スル筈ナリト英総領事ヨリ通知アリタリ

在支公使へ転電セリ

(別電)

十二月十五日在廣東天羽總領事發伊集院外務大臣宛電報第三〇九号

孫文顧問「ノルマン」ヨリ英國總領事宛通報

第三〇九号 (別電)

I am authoritatively informed that on the nineteenth Sun will address communication to commissioner of Customs, calling on him to retain in Canton all revenues collected, but it is understood that he does not propose, for the present, to follow it up by forcible action. I am additionally informed from a most trustworthy source that this does not imply rupture of negotiation which, it is hoped, may still continue.

~~~~~

六二七 十二月十六日 (発)

在廣東天羽總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

廣東税関差押ヲ要求スル廣東地方改善委員会
ノ行動及ビ中国諸新聞ノ態度ニ付報告ノ件

改ヲ見ントスルニ至リタルニ反シ米國ハ六隻ノ驅逐艦ヲ呼
ビ寄セ広東ヲ威喝セントスルモノナリトテ主トシテ米國ニ
攻撃ノ鋒ヲ向ケタルコト之レナリ

~~~~~

六二八 十二月十七日 (発)

在廣東天羽總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

関稅剩余取得ニ付孫文側ハ態度強硬ナルモ幹  
部側ニ於テハ日本側ノ調停斡旋ヲ希望ノ旨報  
告ノ件

第三一一号

往電第三〇九号孫文ノ要求ニ對シテハ税関長ハ之ヲ拒絶ス  
ルコトニ決定シタル趣ナルカ其際孫派ノ執ルヘキ処置ニ付  
最確實ナル筋ヨリノ聞込ミニ依レハ孫派ハ現税関長ヲ罷免  
シ他ノ者ヲ任命スルカ或ハ単独ニ徵稅機關ヲ設置スルカ乃  
至ハ広東ヲ自由港ト宣言スルカ等ニ付考慮ヲ運ラシ居レル  
モノノ如シ

孫文初メ其幹部ハ依然外部ニ對シテハ強硬ナル態度ヲ装ヒ  
市民ヲ煽動シ次テ市民大会ヲ催サシメ示威行列ヲ為シ十七  
日新聞ニ於テ其成功ヲ宣伝スルモ事實之ニ参加シタル殆ト

一〇 廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題 六二八

第三〇七号

往電第三〇三号ニ関シ

孫文ハ不相變大氣焰ニテ十五日佐藤安之助往訪ノ際モ列國  
ト戰フモ飽ク迄其主張ヲ貫徹スベシト放言シタル趣ナルガ  
國民黨内ノ広東地方改善委員会ハ労働界ノ首領謝英伯(昨  
年香港海員「ストライキ」ノ牛耳ヲ取りタルモノ)其他数  
名発起ノ下ニ『列國ガ関余配給ニ對スル南方政府ノ正當ナ  
ル要求ヲ拒ミ軍艦ヲ派遣セシガ故ニ広東政府ニ對シテ廣東  
税関差押ヲ強要センガ為メ十六日大会ヲ召集スル』旨ヲ十  
五日ノ新聞ニ廣告シ又国民党系ノ学生及労働者諸団体ハ十  
七日大会ヲ開ク筈ナリト云フ

十五日ノ支那諸新聞ハ明ニ政府ノ使噤ニ出デタルモノノ如  
ク何レモ関余問題ニ對スル廣東側ノ要求ヲ支持シ列國ノ武  
力干涉ヲ論難シタリ唯此処ニ注意スベキハ從來政府派新聞  
紙ハ本件ニ関シテハ英國ノ態度最頑強ナリトシ英國ヲ攻撃  
シタリシガ十五日ノ論調一變香港總督ハ香港ノ立場ヨリ広  
東封鎖ニ反對シ居タリシガ過日モ廣東政府ヨリ派遣セラレ  
タル陳友仁ニ對シ廣東側主張ノ正當ヲ認ムル旨ヲ言明シ其  
旨北京公使及英本國政府ニ電報シタル結果英國ノ態度ニ變

全部ハ労働者ノミニテ其氣勢モ左程揚ラサリシモノノ如シ  
今後各界ノ会合統々行ハルヘキモ恐ラクハ学生労働者以外  
ニハ多大ノ感興ヲ惹カサルヘキヲ以テ幹部側ニ於テハ更ニ  
(解決也)  
排貨意向アルハ十六日佐藤カ伍朝枢ト会話ノ折伍ハ佐藤ニ  
向ヒ此際日本政府ニ對シ調停斡旋ノ勞ヲ執ランコトヲ進言  
センコトヲ依頼シ其實行方法トシテ本問題ハ事實「アグレ  
ン」ノ承諾ヲ得レハ解決スルモノナレハ日本公使ニ於テ非  
公式「アグレン」ニ會談センコトヲ希望シタル趣ニ徵スル  
モ明白ナリ支那側ニ於テハ依然香港總督ノ調停說ヲ宣伝シ  
為ニ英國ニ對スル感情ハ甚タシク(脱)有シ来リタルモ十  
六日英總領事ト落合ヒタル際ノ聞込ミニ依レハ香港總督ハ  
廣東政府ノ代表者陳友仁ニ對シ本問題ニ干与セサル旨ヲ言  
明シタル趣ニシテ之ヲ事實ニ徵スルモ其後英國側ノ態度ニ  
改變ノ兆ヲ認メス又十六日米國總領事及「アシュビル」艦  
長ト路上立話ニ依レハ両三日支那側カ甚タシク米國ニ對シ  
激昂シ来レル事實ニ鑑ミ目下香港ニ残レル二隻ノ驅逐艦ハ  
馬尼刺ニ歸サシムルコトトシタル趣ナリ往電第三〇三号ニ  
関シ外交団會議ノ模様ハ北京ヨリノ電報未着ノ為當方ニ不  
明ナルモ目下當時會議ノ情勢ニ鑑ミ將又總稅務司ノ意向ヲ

判シ此際我方ニ於テ幹旋ノ結果目下廣東政府ノ勢力範圍ニ在ル関稅剩余ヲ軍費以外ノ目的ノ為ニ使用スル条件ノ下ニ廣東側ニ配給スルコト（九月七日付在支公使宛公信第三九号参照）ニ執成シ得ヘキ見込アラハ右伍朝枢ノ佐藤ニ対スル依頼ニ付慎重ノ考慮ヲ払フノ必要アルカト思考ス

在支公使ヘ転電セリ

六二九 十二月十七日（発）

在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

外交団ガ廣東政府ノ関稅剩余配当ニ関スル伍

朝枢ノ申出及ビ之ニ対スル外交団回答ヲ發表

ノ件

第一一五九号

往電第一一四七号及第一一四八号並廣東發閣下宛電報第三〇三号ノ一号ニ関シ外交団ハ伍朝枢ヨリノ二回ノ申出並ニ之ニ対スル外交団ノ二回ノ回答ヲ十六日發表セリ從ツテ貴地ニ於テモ發表セラレ差支ナシ委細郵報ス

廣東總領事ヘ転電セリ

要領左ノ通

一、英艦「ムーアヘン」及米「パンパンガ」ハ市ノ東南端停車場付近英「タランチュラ」ハ税関ノ前ヘ同ジク「ロビン」ハ仏蘭西病院前ニ至ル事但右ハ「タランチュラ」ヨリノ報知ニ依リ出動ス

二、税関保護ノ必要生ズル時ハ各国ヨリ英五〇、米五〇、仏二五、日二〇、葡一五、伊一二ノ陸戰隊ヲ上陸セシムル事但右上陸ハ「タランチュラ」ヨリノ信号ニ依リ之ヲ行フ三、沙面ノ保護ニ関シテハ必要ノ際英「マクノリア」及「プリュウベル」ヨリ陸戰隊ヲ上陸セシメ之ニ当ラシム四、右ノ外市内ニ散在スル居留民保護ニ関シテハ必要ノ場合米国ヨリモ五十名乃至二百名日本ヨリ二〇名仏国ヨリ二五名ヲ上陸ス日本ハ邦人ノ集合場所タル博愛会医院及河南本願寺説教所ニ派遣スル筈当方ヨリ高橋司令木村副領事出席ス

在支公使ヘ転電セリ

六三二 十二月十八日（発）

在香港高橋總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

孫文ハ関稅剩余金獲得ノ為メ廣東、香港ノ中国

一〇 廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題 六三二 六三三

六三〇 十二月十七日（発）

在廣東天羽總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

廣東港ニハ目下各国艦艇十七隻碇泊ノ旨報告  
ノ件

第三一三号

杉、櫛十六日入港ス目下当港ニハ軍艦英五米仏各二葡萄牙伊太利各一米駆逐四合計十七隻碇泊ス但伊軍艦ハ吃水ノ關係上香港ヨリ当地ヘ來航出來サル為別ニ仮裝砲艦ヲ当地ニ派遣シタルモノナリ

北京ニ電報ス

六三一 十二月十七日（発）

在廣東天羽總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

廣東ニ於ケル必要ノ場合ノ措置ニ関シ在泊列

國軍艦ノ首席將校集合協議決定セル事項報告

ノ件

第三一五号

十六日英艦「タランチュラ」号上ニ在泊各国首席將校集合シ必要ノ場合ノ準備ニ関スル打合せヲ為シタルガ決定事項

人労働者ヲシテ孫文後援会ヲ組織セシメツツ

アリトノ情報報告ノ件

第一〇二号

十二月十七日夜鄭（梁士詒ノ秘書鄭文軒ノ実兄ニシテ香港労働者間ニ声望アリ）ノ本官ニ洩シタル所ニ依レハ今回孫文ノ関稅剩余乗取り運動ニ関シ廣東政府ハ廣東及香港両地ノ支那人労働者間ニ孫文後援会ヲ組織セシメツツアル趣ニテ局面ノ進展如何ニ由リテハ關係欧米諸國ニ対シ排貨運動開始セラルルヤモ計ラレスト謂フ御参考迄

在支公使及在廣東總領事ヘ転電セリ

六三三 十二月十八日（発）

在香港高橋總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

廣東ノ関稅剩余問題ニ関シ香港ノ「デーリープレス」及ビ「ポスト」ガ孫文ノ主張ニ同情的ナル旨報告ノ件

第一〇三号

往電第一〇一号ニ関シ

其後当地「プレス」紙ノ論調一変セル次第ハ不取敢公第二三七号ヲ以テ郵報(脱)セラル其要領左ノ通り  
十四日ノ「プレス」紙ハ十一月中倫敦支那協會ニ於ケル「ジョルダン」氏ノ演説ヲ報道スルト共ニ既報ノ態度ヲ一變シテ孫文ノ主張ニ同情ヲ表シ本問題ニ関シ南北ノ妥協ヲ望ム意味合ヲ述ベ且支那協會ノ提言ニ係ル関稅剩余問題特別會議ノ權限ヲ擴張シテ支那ノ一般財政問題モ討議セシムル案ノ採用方ヲ希望セリ即チ関余問題ニ就テハ「プレス」及「ポスト」ノ兩紙トモ寧ロ孫ノ言分ニ同情ヲ表シ居ル姿ナリ

北京、広東へ転電セリ

六三四 十二月十九日(発) 伊集院外務大臣ヨリ  
在中國芳沢公使宛(電報)

孫文ノ海關押収企圖ニ対スル我方方針訓令ノ件

第七四六号

孫文ノ海關押収企圖ハ關係諸國ノ強硬ナル態度ニ顧ミ結局不徹底ニ終ルヘキカト察セララルモ広東側ニ於テ四圍ノ情

(情報)

広東政府ハ本年七月以来再三北京外交団ニ対シ一九一九年西南護法政府ニ対スルト同様関稅剩余分配ノ要求ヲ提出シ外交団ニ於テ考慮中ナリシ処突然十二月五日ニ至リ今後二週間以内ニ右要求貫徹セサルニ於テハ最後ノ手段ニ訴フヘキ旨言明スルニ至リタリ依テ外交団ハ十二月十四日同政府ニ対シ外交団ニハ右要求許可ノ權限ナシ又関稅收入ヨリ支弁スヘキ借款及賠償金ノ支払義務ニシテ履行セラルル場合ニハ剩余金ノ使途如何ハ支那政府自身ノ決定スヘキ筋合ノモノナリ先年護法政府カ関稅剩余金ノ一部ヲ受領シタルハ広東、北京兩政府間協定ノ結果ニシテ外交団トシテ何等介入シタル事実ナキ趣ヲ回答スルト共ニ他方広東政府カ愈々税関干涉ヲ断行スル場合ニハ外国債權者保護ノ為陸戰隊ヲ上陸セシメ之ヲ阻止セシムヘキ旨ヲ決定シ広東領事団ヲシテ既ニ其ノ手筈ヲ了セシメタリ

英仏へ転電アリタシ

六三六 十二月十九日(発) 在広東天羽総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

孫文ガ米国民ニ与フル公開文ニテ米國ガ軍艦

一〇 廣東政府ノ関稅剩余金分与要求問題 六三六 六三七

勢ニ余儀ナクセラレ万一ニモ強行手段ニ出ツルカ如キコトトモナラハ消極的防止ヲ目的トスル外国側ニ於テモ自然積極的行動ニ移ルノ已ムヲ得サルコトナリ一段ノ紛糾ヲ加フルニ至ルナキヲ保セス斯ル事態ハ諸般ノ關係ニ顧ミ帝國政府ノ甚タ好マサル処ナルハ勿論ニテ本問題カ速ニ北京広東兩者ノ妥協ニ依リ支那内部關係ニ於テ円満ニ解決ヲ告ケムコトヲ切望スル次第ニ付貴官ハ貴電第一一一三号外交団會議決定通關係國一致ノ態度ヲ以テ進マルルト共ニ他面右帝國政府ノ方針ヲ体シ適當ナル機會ヲ利用シ妥協促進上機宜ノ措置ヲ講セラルル様致度尚申迄モナク右ハ事機微ニ亘ルヲ以テ何等措置ヲ執ラルル場合ニ關係國側ヨリ誤解ヲ受クルカ如キコトナキ様十分御留意相成タシ

右訓令トシテ広東ニ転電アリタシ

六三五 十二月十九日(発) 伊集院外務大臣ヨリ  
在米國植原大使宛(電報)

広東政府ノ関稅剩余配分要求ニ対シ外交団ニ於テ対策ヲ協議決定ノ旨通報ノ件

第六九四号

ヲ派遣シ広東政府ノ関稅剩余回收ヲ妨害スルコトニ抗議ノ件

第三一七号

十九日ノ新聞ハ孫文ノ米国民ニ与フル十七日付公開文ヲ掲載シタルガ孫文ハ其中ニ於テ米國ガ北京政府ヲ援ケムガ為軍艦ヲ派遣シテ広東政府ノ関余收回ヲ妨害スルコトニ対シ抗議セリ

北京ニ転電セリ

六三七 十二月十九日(発) 在広東天羽総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

広東へ各国軍艦多数派遣ニ付交渉員ヨリ首席領事ニ説明ヲ求メ来リ首席領事之二回答ノ件

第三一八号

在支公使發閣下宛第一一四七号ニ関シ

交渉員ヨリ十八日付公文ヲ以テ首席領事ニ対シ各国多数軍艦派遣ノ説明ヲ求メ来リタルニ付十九日首席領事ヨリ右ハ孫文ガ広東税関管理ノ意図アルコトヲ公言シタル為ナルヲ

以テ斯ル企図ナキコトノ保証ガ与ヘラルルニ於テハ各国軍艦ハ撤退スベシト回答セリ

在支公使へ転電セリ

六三八 十二月二十日(発) 在廣東天羽総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

廣東ノ関税剰余ヲ廣東ニ保管スル様伍外交部

長及ヒ葉財政部長ヨリ税関長ニ示達ノ件

第三一九号  
(編註)

往電第三〇九号ニ関シ

税関長ハ十九日夜晩ク伍朝枢及葉恭綽ノ名ヲ以テ発送セラレタル書面ヲ受取りタルカ廿日其写ヲ送付シ来リタルカ右書翰ハ前掲同様外国力関税剰余ニ対シ容喙ノ權利ナキコトヲ指摘シタル後大元帥ノ命令トシテ税関長ハ外国債權ヲ差引キタル爾余ノ関税ヲ保管シ廣東政府ノ指令ヲ俟ツヘク民國九年以來渋滞セル廣東政府ノ取分タル関余ハ税関長ニ於テ税中ヨリ之ヲ支払フヘキ旨ヲ示達シ右総稅務司ニ伝達方要求セリ

北京へ転電セリ

編註 同電ハ第三一八号トアリシモ前後ヨリシテ第三一九号ト改

ム

六三九 十二月二十日(発) 在香港高橋総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

「孫文ノ最後通牒」ト題スル「ポスト」紙ノ

社説報告ノ件

第一〇五号

十二月十九日ノ「ポスト」紙ハ孫文ノ最後通牒ト題スル社説ヲ掲ゲタルガ要領左ノ如シ

(一)列国ハ税関ヲ差押ヘムトスル孫ノ威喝ニ対シ痛切ノ利害關係ヲ有ス列国ノ関スル限り北京政府ハ即チ支那政府ニシテ孫文ハ叛逆者ナリ北京政府ガ孫文ヲ压迫シテ外国ノ權利ヲ保護スルコト能ハザルガ故ニ列国ハ自ラ之ヲ保護セザルベカラズ之ガ為廣東省ニ何等不利益ヲ来タストモ夫ハ孫文ノ責任ナリ

(二)列国ハ敏速ニ機宜ノ行動ヲ執リ而モ悦ブベキ一致ノ態度ヲ以テ茲ニ出デタリ今ヤ關係列国孰レモ軍艦ヲ税関付近ニ集中シ何時ニテモ陸戰隊ヲ上陸セシメムトスルノ準備成レリ事茲ニ及ビテハ香港ノ思想ガ本紛争ノ各方面ニ就キ是非

ノ詮議ヲ為サザルニ至レルハ敢テ怪ムニ足ラズ當植民地ハ吾人ノ取調ベタル限りハ列国ガ終ニ些カ確固タル態度ヲ示スニ至リ單一ノ目的ヲ以テ行動シツツアルヲ悦ビ居リ且右ノ協同一致ガ維持セラレムコトヲ希望シ居レリ

(三)廣東省ノ隣人タリ出口タリ指導者タリ又友人タル香港ノ特殊地位ハ列国ノ知悉スルトコロニシテ吾人ノ立場ハ詳細ニ説明スルヲ要セズ

(四)吾人ハ孫文ニシテ頑迷ニ固執スルニ於テハ随分他ニ迷惑ヲ懸ケ得ベキヲ知り居レリ例ヘバ孫自身ノ税関ヲ設置スルノ方法モアルガスノ如キハ支那ノ税関組織ヲ破壊スルノ結果ヲ生ズベク又「ストライキ」ヲ煽動スルノ手段モアリ此場合ニハ多少香港ニ害ヲ与ヘ得ベキモ香港モ昨年「ストライキ」ノ経験アレバ今回ハ容易ニ傷ツカザルベク却テ孫文自身ノ破滅ヲ齎スコトアルベシ

(五)之ヲ要スルニ香港トシテハ在留支那人及外国人ノ為廣東省民及支那全体ノ為友誼の解決ニ到達セムコトヲ依然トシテ希望スルモノニシテ其一案ハ若シ関税ニ剰余アラバ其幾分ヲ外国ノ監督ノ下ニ廣東省ノ公共事業ニ使用セシムルニ在リ

(六)最後ニ「ポスト」紙ハ香港ニ於ケル支那人実業家ガ本件ニ関シ沈黙ヲ守ルヲ奇怪ト為シ其意見ヲ求メ居レリ

北京、廣東へ転電セリ

六四〇 十二月二十一日 伊集院外務大臣ヨリ  
在本邦英國大使宛

孫文ノ廣東海関押収阻止ニ協力スル旨回答ノ

件

亜一機密第一六二号

以書翰致啓上候陳者孫逸仙ノ廣東海関押収企画ニ関連シ關係国側ニ於テ更ニ何等行動ヲ執ル必要アル場合帝國政府ノ協力ヲ希望スル旨貴国外務大臣ノ訓令ニ基キ十二月十五日付貴翰第一七一号ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候

御来示ノ通廣東海関保護ノ為メ必要トスル措置ヲ執ルニ當リ關係国一致シテ同一ノ態度ニ出ツル場合ハ帝國政府ニ於テモ出来得ル限りノ手段ヲ以テ協力スルヲ辞セサルヘク右ノ趣旨ハ既ニ在廣東帝國総領事ニ及訓令置候条右様御諒承相成度此段回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

六四一 十二月二十二日 (発) 在広東天羽総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

孫文ノ「ステートメント」ニ関シ日英米仏葡  
伊各領事及ビ在港各国軍艦首席將校協議ニ付  
報告ノ件

別電 十二月二十一日在広東天羽総領事發伊集院外務大臣宛  
電報第三二二号  
右孫文ノ「ステートメント」内容

第三二〇号

十二月二十一日英総領事館ニ於テ英米仏葡伊日各領事及在  
港各国軍艦首席將校会合首席領事ヨリ孫文ハ別電第三二一  
号「ステートメント」中ニ於テ往電第三一九号「アグレ  
ン」ニ対スル命令カ拒絶セラルル場合ハ自ラ関税事務ヲ執  
ルヘキ税関吏ヲ任命スヘキ旨並外國債務ノ担保ニ入りアル  
モノハ関税収入ニシテ税関ノ建物ナラサル旨ヲ主張セル点  
ニ注意ヲ喚起シタル後尚右「ステートメント」中ニハ広東  
政府管理以外ニアル諸税関ノ収入額ハ外國公債ヲ支払ヒテ  
猶数百万ノ剰余ヲ生スト記載スルモ最近九ヶ月間ノ余剰ハ  
全 (脱) ニテ三百五十万弗 (脱) ニ右「ステートメント」

(別電)

十二月二十一日在広東天羽総領事發伊集院外務大臣宛電報第三  
二二号  
孫文ノ「ステートメント」内容

第三二二号 別電

Following up the letter to the Commissioner, the  
Government have today published a long statement in  
English for the press.

After rehearsing the contents of the former, it  
goes on to say that on December 12th the diplomatic  
body having confirmed the contention that they have  
no right to interfere with the customs surplus the mat-  
ter rests between this Government, the Central Gov-  
ernment and the Inspector General. The Powers are  
not justified in sending ships here to assist Peking. If  
the order to the Commissioner be not obeyed, Sun  
will appoint new officials to carry on the works. A  
point is raised that the security for foreign obligations  
is the revenue, not buildings or other customs proper-

ノ概要ヲ報告スル必要ナキヤトテ一同ニ諮リ首席領事ヨリ  
別電ノ通り發電スルコトニ決定ス其ノ際関税余剰額ニ付問  
答アリタル故本官ハ此際税関 (脱) 総稅務司ニ対シ関税余  
剰ニ対スル明細表ヲ入手センコトヲ提議シ決定ス次テ首席  
領事ハ各国軍艦ヲ尚留置ク必要アリヤトノ問題ヲ出シ本官  
ノ意見ヲ聞キシニ付本官ハ往電第三一八号交渉員ニ対スル  
領事団ノ回答ニ言及シテ孫文ヨリ未タ関稅管理企圖拋棄ノ  
保障ヲ得サルノミナラス右「ステートメント」中ニハ孫文  
自身税関吏任命ノ意向ヲモ仄メカセルヲ以テ領事団トシテ  
ハ從來ノ行懸上軍艦ヲ撤退シ得サル地位ニ在ルニアラスヤ  
ト述ヘテ暗ニ他ノ意向ヲ当リシニ各国領事ハ何レモ留置キ  
ノ必要ヲ主張シ別電第三二二号ノ末ニ In view of that  
above Consular Body are of opinion that foreign  
war-vessels at present in port should remain 付加  
スルコトニ決定ス最後ニ米総領事ハ十九日交渉員ヨリ米國  
軍艦力港内ニ於テ濫ニ無線ヲ使用シ広東政府ヲ妨害ストテ  
使用ニ対スル抗議ニ接シタルカ右抗議ハ理由ナキ故之ヲ反  
駁スヘシト述ヘ一同ノ意見ヲ聞キシカ一同別ニ異議ナシ  
在支公使ヘ転電セリ

ty. If new officials are installed therein, the Powers  
have equally no right to interfere. The customs rev-  
enue outside of Canton is more than ample to meet  
all obligations, and change of officials cannot affect  
the service thereof. The final point is that the boxer  
indemnity is a punitive prewar measure, now out of  
date and practically abandoned in favour of Chinese  
interest.

Amanu

北京ヘ転電ヤリ

六四二 十二月二十三日 (発) 在広東天羽総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

関税剰余配分問題ニ関シ孫文ノ対英米態度ニ  
付報告ノ件

第三二二号

往電第三二二号ニ関シ

英国ニ対シテハ尚其ノ政争ヲ利用シテ解決ヲ計ラントスル  
意向アルモノノ如ク各団体ノ態度寧ロ穏和ナルモ孫文ハ英

労働党首領「ラムゼイ・マクドナルド」ニ宛英国公使総務司及英総領事ノ行動ニ対シテ抗議セリ日本ニ対シテハ暗ニ調停ヲ期待スルモノカ今迄ノ処好感ヲ有ス

孫文ノ米国民ニ対スル公開文謝英伯ノ米国上下両院ニ対スル陳述米国軍艦無線ニ対スル抗議等ノ如キ各種団体ノ宣言モ皆主トシテ米国ヲ攻撃シ居ルガ其ノ原因ハ米国ノ態度最強硬ニシテ最多數ノ軍艦ヲ派遣シタリト謂フニアルカ如シ二十日市内ニ英米貨排斥ノ伝單配布セラレ排貨運動煽動セラレタルモ唯今ノ処大ナル反響ナシ他方労働界ノ首領ハ香港ト策応シテ一般労働特ニ海員ノ同盟罷工ヲ起サントスルモ密カニ聞込ム所ニ拠レハ甚シク資金ニ欠乏ヲ感スルモノ如シ二十四日更ニ国民大会ヲ開キ示威運動ヲ為シ氣勢ヲ揚クル由

北京及香港へ転電セリ

六四三 十二月二十五日 (発)

伊集院外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛 (電報)

英国大使ヨリ広東海關保護ニ関シ何等行動ヲ  
執ル必要アル場合日本政府ノ協力ヲ希望申越

アリタルニ付協力ヲ辞セザル旨回答セル件

第七五五号

往電第七四六号ニ関シ十二月十五日在本邦英国大使ヨリ本国政府ノ訓令ニ基キ関係国側ニ於テ更ニ何等行動ヲ執ル必要アル場合帝國政府ノ協力ヲ希望スル旨申越ノ次第アリタルニ付今般右ニ対シ広東海關保護ノ為必要トスル措置ヲ執ルニ当リ関係国一致シテ同一ノ態度ニ出ツル場合ハ帝國政府ニ於テモ出来得ル限りノ手段ヲ以テ協力スルヲ辞セサル旨回答セリ御含迄

広東へ転電アリタシ

六四四 十二月二十八日 (発)

在香港高橋総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

広東ノ関税剰余金分与問題ニ関シ梁士詒ノ内話  
報告ノ件

第一〇七号

関余問題ニ関スル香港ノ立場ハ要スルニ本問題紛糾ノ結果排外運動ヲ激発スルニ至ラムコトヲ虞レツツアリ彼等ハ今回列国ノ協同的態度ヲ指摘シテ広東ノ牽制ニ努ムルモ内心

ハ出来得ヘクムハ本件ニ関スル南北ノ妥協成立シテ干涉ノ必要ヲ生セサラムコトヲ希望シ居ルモノト観測セラルル処十二月二十六日梁士詒ト会合ノ折談会々関余問題ニ及ヒタルカ梁氏ハ「自分トシテハ本春孫ノ帰粵当時ニ比スレハ孫ニ対スル敬意モ幾分薄ラキ居ル次第ナレハ此際敢テ孫ヲ庇護スルモノニアラス」ト前提シ大要左ノ意見ヲ吐露セリ

(一) 関余年額一千七百万元ハ全部内債ノ担保トナリ居レル關係上此内幾分ニテモ他ニ割カルハ交通系銀行ニ取り不利トナル理ナレハ自分一個ノ利害ヨリ打算スレハ関余ノ一部ヲ広東政府ニ交付スルハ不利ナルモ自分ハ二個ノ理由ニ依リ孫ノ主張ニ賛成スルモノナリ即(イ)孫政府カ其主張スル関余年額百五十萬元ヲ獲得スレハ現ニ苛斂誅求ニ苦シミツツアル廣東省民ハ其丈負担ヲ軽減セラルヘキコト(ロ)一九二〇年ノ南方政府ト本年ノ広東政府トノ間ニ區別ヲ設ケ前者ハ関余ノ分配ヲ受クル資格アリシモ後者ハ其資格ナシトノ詮議立ヲ列国カ為サハスノ如キ行為ハ支那ノ内政ニ干涉スルモノニ外ナラス

(二) 列国ハ関余分配ノ要求ニ対シ干涉スヘキ理由ナシ何トナレハ関余ノ増減ハ外国ノ利益ニ影響ヲ及ホスコトナキヲ以

テナリ一方北京政府ハ内債ニ対シ関余一千七百万元ヲ工面スルノ義務ヲ負担シ居レトモ此義務ヲ履行シ居ラサルニ付更ニ関余中ヨリ百五十萬元ヲ失フモ北京政府ノ實際収入ニ減少ヲ来スコトナシ之ヲ要スルニ今次列国ノ態度ハ畢竟支那政府ノ一官吏タル総稅務司ノ支那国内ニ対スル威信ヲ保護セムトスルニ過キスシテ斯ノ如キハ干涉ノ正当理由ヲ構成セス

(三) 識者ハ広東ニ於ケル列国ノ示威運動ヲ左迄意ニ介セサルモ民衆ハ今ニモ広東ヲ攻略セラルルヤニ危惧シ居ルヲ以テ勢カラス排外思想ヲ蘊釀シツツアリ一方本問題ノ實質的解決ニハ時日ヲ要スル見込ニ付列国トシテハ先ツ速ニ軍艦撤退ノ途ヲ講スルヲ得策トスヘク切メテ日本軍艦ナリトモ第一歩トシテ黄埔迄引揚ケラレタキモノナリ云々

惟フニ本問題ハ頗ル「デリケート」ナルヘキモ香港ハ南北ノ妥協ヲ望ミ居リ広東ハ官民トモ外国ノ干涉ヲ惡ムノ事實ニ鑑ミ此際日本政府ニ於テ「リード」ヲ取ラレ軍艦撤退ノ件及南北妥協ノ件ニ付解決ヲ見ルコトヲ得ハ之カ為南支ニ於ケル我威信ヲ増加スルコト甚大ナルモノアラムト思考セラル 公使、広東へ転電セリ

一〇 廣東政府ノ関税剰余金分与要求問題 六四五 六四六 六四七

六二八

六四五 十二月二十八日(発) 在廣東天羽總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

孫文ガ関税剰余ハ軍事ニ使用スベカラズトノ

意見ヲ「シカゴ・デーリー・ニュース」記者

ニ述べタル件

第三二七号

関税問題ニテ「シカゴ・デーリー・ニュース」記者「ジュニアス・ウッド」廿七日來訪、其談ニ依レバ孫文ハ会見中ニ於テ北京政府ガ関余ヲ軍事ニ使用シテ南方ヲ攻ムルハ忍ビ難キ所ナレバ廣東及北京共ニ之ニ帰屬スベキ関余ヲ軍事ニ使用セズ治水教育等ノ如キ国民利福ノコトニ消費スルコトハ承認シ得ベシト語リタル趣ナリ御參考迄  
公使ヘ電報セリ

六四六 十二月二十九日(発) 田尻馬公要港部司令官ヨリ  
財部海軍大臣、山下軍令部長宛(電報)

廣東税関問題ハ交渉行詰リノ状況ニシテ各国

軍艦ハ警備シ居ル旨報告ノ件

廣東情報七番電 (大正十三年一月四日外務省写接受)

第二十三驅逐隊司令報告

編註 以下ノ新聞報ハ本項ト関係無キニ付省略ス

六四八 十二月三十一日(発) 在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

孫文ヨリ関税剰余ニ関シ葡国公使ヲ通ジ北京

外交団ヘノ申入レニ対シ外交団ハ之ヲ拒否ス

ル様廣東首席領事ヘ依頼ノ件

別電 同日在中國芳沢公使ヨリ伊集院外務大臣宛電報第一

一九五号

右ニ関スル外交団ヨリ廣東首席領事宛電報

第一一九四号 (大正十三年一月一日接受)

本使發在廣東總領事宛電報

第三一号

二十四日葡国公使香港立寄ノ際孫逸仙ノ代表者同公使ヲ訪問シ関税問題ニ関スル調停ヲ求メタル結果二十七日付ヲ以テ孫逸仙ヨリ同公使ニ覚書ヲ送り來レル由ニテ右写ヲ外交団ニ電報スルト同時ニ考量ヲ求メ來リタル処右覚書ニハ関税剰余ニ対スル廣東政府ノ權利ヲ留保スルト同時ニ総稅務司ニ於テ十二月十九日ノ命令ニ從ハサルニ於テハ廣東政府

一〇 廣東政府ノ関税剰余金分与要求問題 六四八

税関ニハ廣東政府ハ内心仲裁ヲ希望スルモ表面ノ態度強硬ニシテ目下行詰リ各国軍艦ハ其儘警備ノ協議解決永引ク  
十二月二十九日

六四七 十二月三十一日(着) 在米國填原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

廣東税関差押ヲ妨グル為メノ海軍示威運動ニ

米國ノ参加ニ関スル「ワシントン・ポスト」

ノ報道ヲ報告ノ件

第八五七号

二十八日新聞報

一、華府「ポスト」ハ米國ガ孫逸仙ノ廣東税関差押ヘヲ妨グル為海軍示威運動ニ参加スルコトハ北京外交団ニ依テ勸告セラレ國務省モ之ヲ是認スルニ至ツタ米國ガ日、英、仏諸國ノ為協同動作ニ出タノハ之ニ依リ關係諸國ノ條約上ノ權利ヲ保護シ延イテ支那自身ノ安泰ヲ図ル所以デアル併シ若シ將來米國ガ諸國ノ先棒ニ使ハル様ナ不利益ノ立場ニ置カルルナラ其ノ際ハ政策ノ変更ヲ見ルカモ知レヌ云々ト  
(編註) 報ス

ハ別ニ税関吏ヲ任命スヘキ事若シ外交団カ右ノ措置ヲ以テ支那税関制度ノ有効ナル運用ヲ妨クルモノナリトセラルルニ於テハ本件ニ関シ廣東ノ外交団及北京政府ノ代表者ヨリ成ル會議ヲ開催スルノ案ハ考慮スルニ吝ナラサルヘキ事但シ本年末関税剰余ハ右會議ノ結果ヲ見ル迄ハ如何ナル目的ニモ使用セラレサルヘキ旨認メアリ右ニ関シ首席和蘭公使ハ三十一日本使ヲ來訪シ右覚書記載ノ各項ハ何レモ廣東政府ヲ獨立政府トシテ認メタルカ如キ誤リタル概念ニ基キ居ルノミナラス若シ右會議開催ニ同意スルニ於テハ事實上廣東政府ヲ承認スル事ナルノ虞アルカ故ニ別電第三二号ノ通首席領事タル貴官ニ電報シタク已ニ英、仏、米各國公使ノ同意ヲ得タリトテ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ニ於テモ之ニ同意ヲ表シ置キタルニ次テ伊國公使ノ同意ヲモ取付ケタリトテ本使ヲ通シ發電方依頼越セリ就テハ至急別電ノ趣旨ニ基キ然ルヘク孫文ニ申入レラレタシ

右別電ト共ニ大臣ヘ転電セリ

(別電)

十二月三十一日芳沢公使發伊集院外務大臣宛第一一九五号

右ニ関スル外交団ヨリ廣東首席領事宛電報

六二九

第一一九五号

(大正十三年一月一日接受)

本使発広東宛電報

第三二二号

Following is from Oudendijk Netherland's Minister and Dean to Senior Consul, Canton.

Sun Wen has sent a memorandum to me through Monsieur de Freitas concerning his claim to the Surplus Customs revenue collected in Canton. I am un-

able to lay before the Diplomatic Body any communication from the local authorities in Canton on the subject except those which pass through the recognized channel which is through you as Senior Consul. I shall be obliged if you will make a communication in this sense to Doctor Sun.

Yoshizawa.

## 事項一 中国内政関係

六四九 一月二日

在天津吉田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対日感情ノ好調ニ乗ジ列国ヲ誘イ中国統一ノ

議ヲ唱導スベキ要アル旨意見開陳ノ件

第一号

(編註<sup>1</sup>)

客年拙電第二二三号直隸派政權掌握ヲ画策シ苦心慘憺内部ノ結束四方ノ連絡ニ百万努メ居レルモ曹錕總統問題ノ未タ実現セサルハ内ニハ呉佩孚一派ノ時機尚早説アルカ為曹錕ニ躊躇ノ色アリ外ニハ張作霖、盧永祥、孫文等トノ連絡全カラサル為メト思考ス曹錕大總統ニ就任後失脚ヲ予期シテ虎視眈々タル段派ノ近状ハ客年十二月機密第一三四号拙信ノ通ナリ段派モ直派モ其志ヲ遂クルニ帝國政府ノ好意ニ依ルノ要ヲ察シ来レルニ至リテハ共ニ一ナリ惟フニ山東問題

(編註<sup>2</sup>)

解決ニ依リテ我誠意ヲ徹底シ借款ノ不成立ニ依リ我実力ヲ認メラレ今ヤ対日感情ノ改善数年未タ曾テ見サル所ナリ帝國政府ニシテ真ニ支那統一ヲ日支国交ノ将来ニ立脚シテ彼我ノ利トシ其統一ノ業ヲ為サシムルノ意アルニ於テハ我誠

意ト実力ノ透徹セル今日ヲ以テ統一ノ業ヲ助クルノ好機會

ト為スヘク支那統一ハ中外トモ其速成ヲ冀フ処対支感情ノ好調ニ乗ジ列国ヲ誘ヒテ支那統一助力ノ議ヲ唱道スルハ今日帝國ノ正ニ執ルヘキノ方策ニシテ速ニ御同意相成ルヘキ時機カト存セラル支那ノ現状綱紀全ク紊レ財困足ラス匪賊四方ニ起リ傷害事件日々頻出シ内外借款元利滞リ節閔毎々中央政府動揺シ斯クノ如クシテ能ク久シキニ堪フヘキニアラズ殊ニ在支英米出先官憲ハ目下ノ政争ヲ誇張シテ本國政府ヲシテ何等カ積極的政策ニ出テシメムト焦慮シツツアルハ借款問題等ノ發現毎ニ其一端ヲ窺フ可キモノアリ帝國政府独リ消極政策ヲ固執スルノ四囲ノ状況遂ニハ英米ニ誘ハレテ積極政策ヲ強ヒラルルニ至ラストセバ寧ロ我ヨリ率先シテ支那統一ヲ標榜シ対支政策轉換ノ機ヲ今日ニ求ムヘキニアラザルカト思考シ過般伊集院閣東長官歸京ヲ奉天ニ待受ケ前陳ノ政情ニ基キ卑見開陳シタル次第ナリ右ハ素ヨリ当地方ノミノ政情ニ立脚セル私見ニ過キサルモ敢テ御参考迄電稟ス